



第 20 号

平成22年(2010年)6月25日(金)発行
 発行元:みやげじま『風の家』
 発行責任者:坂上 幸一郎
 東京都三宅島三宅村阿古532-1
 (社団法人 日本建築学会三宅島研修所併付)
 電話:04994-5-1470 FAX:04994-5-1471
 E-mail:miyake_kaze@dolphin.ocn.ne.jp

みやげじま『風の家』でくりかえされる日常の中、人と人との間に灯される「やさしさ」を切り取っています。
 多くの人が“やさしく なかよく”つながっていることの大切さ。
 ただそれだけを見つめて・・・

(^o^) 三宅島木炭 今年も頑張ってます!!

4年前から取り組んでいる「三宅島木炭」づくりです。砂防事業の中で処理される倒木や枯損木の有効利用を目的に行われ、東京都の委託を受けて『風の家』での作業を行っています。

『風の家』では、粉状にされた炭を小さな袋に詰めるという作業を行い、小さな雇用の創出を目的に取り組んでいます。

最終的にラベルを張られた製品となって、東京都によって実施される「河川愛護月間」事業を通じて、広く多くの都民の皆さんの手に届けられます。

直接作業に関わるメンバーは、事前の準備に協力いただいた地域の皆さんや『風の家』全員に見守られながら頑張っていますヨ!



!(~)! あたらしい出逢いに

6月5日(土)と6日(日)にわたり、今回で3回目を迎える、自治労東京都本部組合員の皆さんによる「三宅島交流会」が開催されました。

都内各区市町村の現場で、公務労働に携わる30名を超える方々が三宅島にお出でになり、三宅島をフィールドとして様々なプログラムに取り組まれました。

午後の分科会では、たくさんの島の方々にもご協力をいただき「風の家訪問」や「農業体験」など色々なプログラムを実施しました。



翌日は、様々な生産者の方々を訪問し、その取り組みや現状についてお話を伺うことができました。

また、プログラムを通じて三宅村役場職員の方々との交流も深められました。

参加者からは「島の方々の笑顔に触れ、力強ささえ感じます」との感想もいただきました。

みやげじま『風の家』 聴きみみ

今年、平成 12 年の噴火から 10 年目です。そして今から 27 年前の昭和 58 年噴火災害のときのエピソードを伺いました。当時、全国からたくさんの支援物資が寄せられました。その方が手にした中には、そっと手紙が添えられていたそうです。それがきっかけで、お礼を込めたやりとりが始まりました。ご自宅を再建したある日「こんにちは」と庭先から声が…その手紙の主が、はるばる京都から尋ねて来てくれたそうです。そのときの感動は、今でも鮮明に記憶にとどめていると伺いました。人の思いや優しさは、いつまでも心にあるんだねと感じた一日でした。



とっても若々しい“スター錦野さん”

そんな中、“スター錦野旦さん”が今年も訪ねてくれました。「おかえりなさい！」の言葉と共にお迎えし、ゆっくりとした時間の中で交流がもたれ「いつまでもお元気でね！」と温かい励ましをいただきました。

(*_^*) “食中毒”に注意です

三宅村役場にご協力をいただき、『食中毒予防』についてのお話を伺う機会を設けました。

当日は、お二人の保健師さんにお出でいただき、とても分かりやすい説明に加えて、手洗い方法なども丁寧に伺うことができました。

特に食品の保管方法や管理など、日頃の暮らしの中で注意することも改めて確認することができました。

この季節は、特に注意が必要ですので、みんなで声を掛け合って“食中毒予防”に取り組んでいきたいと思えます。



外出の後、調理や食事の前には手を清潔にしましょう



(^o^) どうぞお気軽にお出で下さい



開設：毎週 火曜日・金曜日(祝祭日は休館)
時間：午前9時から午後3時

『風の家』では、「ボランティア」としてご一緒にいただける方を、お待ちしております。

『風の家』での約束事は「やさしく」そして「仲良く」です。

目には決して見えないものですが、きっと人と人との良い出会いは、「暮らし」の中でとても大切なものだから…

ぜひ、お気軽にお声かけください。



“みやげじま『風の家』だより “に関するご意見・お問合せは、上記までご連絡ください